

環境学習船 megumi に乗ってびわ湖の中をのぞいてみよう!!

2013年9月7日(土)、今年2度目の環境学習船 megumi による親子環境学習が開催されました。今回は19組の親子47名(子供25名、保護者22名)と他にびわ湖トラストのスタッフ、湖底観察を手伝っていただく立命館大学の川村研究室の皆さん、共催の平和堂財団の方など11名が参加しました。今回は、男性の保護者の方が多数参加されたことが目立ちました。集合前に降っていた雨も乗船時には気にならない程度になり、9時45分に大津港を出発しました。



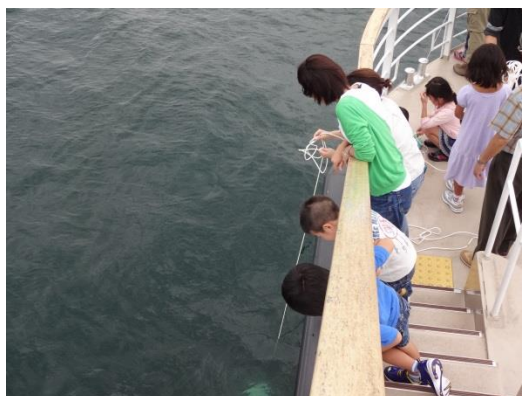
オリエンテーションの後、水中ロボットによる湖底観察に先だって、立命館大学の川村先生からロボットの話をかかせてもらいました。これから湖中に沈められるテレビカメラのついたロボットを先生に見せてもらって子供たちは興味深々でした。中には自分の顔をモニターに写すようにせがむ子供さんもいました。



湖底観察地点の北湖S局に停泊して水中ロボットが湖中に投入され水面から57mの深さの湖底の様子をモニターで見せてもらいました。子供たちは立命館大学の学生さんがモニターを見ながらロボットを操船するのに興味を持った様子でした。



次は湖の透明度の測定です。透明度を測定する道具のセッキ板をグループごとにみんなで作りました。下部に錘をつけた直径30cmの白色の円板（セッキ板）を水平に水中へ沈め見えなくなる深さで透明度を測るのです。説明図に沿って組み立てましたが、円板を紐に固定する際のもやい結びが初めてでちょっと難しかったようです。出来上がった組から後部デッキへ出て透明度を測定しました。北湖でこのあたりの透明度は5m～6mでした。



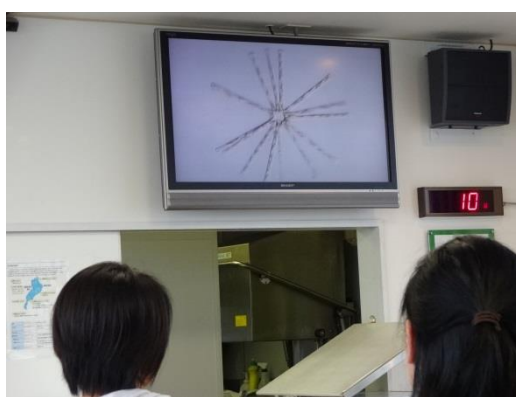
北湖S局を離れ昼食をとりながら次の目的地の沖島に向かいました。途中 megumi は沖の白石や「伊崎の棹飛び」で有名な伊崎寺が間近に見える航路をとってくれました。



入港待ちの間に船中で沖島の説明を聞き、島には小学校もあることを教えてもらいました。14時過ぎに沖島へ上陸、案内図を片手に1時間足らず島内を思い思いに散策しました。普段なかなか来ない所ですが島の暮らしを知る良い機会になったと思います。



次の透明度測定地点の柳が崎に向かう途中、琵琶湖汽船の中村さんが温度差による湖水の循環のモデル実験してくれました。その後、立命館大学の熊谷先生からびわ湖のことをいろいろ教えてもらいました。琵琶パールの盛衰やびわ湖の渦潮の話は初めて聞いた人も多かったのではないのでしょうか。先生のお話についてビデオでミクロの生態系を学ぶうちに柳が崎に到着しました。



今度は南湖の透明度の測定です。北湖の時と同じようにセッキ板で透明度の測定をしました。水面から2mでやっと見える程度の透明度で、北湖に比べ水が汚れていることが確かめられました。



大津港に予定通り16時15分に帰港、いつものように全員集合し記念撮影をして解散しました。

心配された天候も大きくは崩れることなく megumi デッキ上での透明度観察や、沖島の散策に全く支障が出なかったのは幸いで、びわ湖トラスト関係者一同ホッとした思いでした。終了後のアンケートで回答者の子供さんの67%が非常に良かった、25%が良かった、8%が普通と答え、圧倒的多数が喜んでくれました。また保護者全員から他の人に勧めたいと答えて頂いたことは、本イベントを実施したびわ湖トラストとして嬉しい事でした。保護者の方からは船でのびわ湖観覧、湖底観察や透明度測定、沖島訪問など普段子供さんたちに経験させてやれないことができたことを評価頂きました。子供さんたちにとって一番面白かったこととして、アンケートでは沖島があげられ(9名)、あと megumi に乗ったこと(6名)、水中カメラ(4名)、透明板の作成、透明度調査(いずれも3名)が票を分けました。

参加者の皆さんに満足いただける形でイベントを終えられたことに感謝しています。

最後になりましたが、共催者として賛助、助成頂いた公益財団法人・平和堂財団、ならびに協賛いただいた琵琶湖汽船株式会社に御礼申し上げます。

(藤田理事 記)

